



そこかしこ

義経・隠れ塔

ウエルカム・ツー吉野へ

「楽しみ方伝える」

語り部の養成急務」

すずめの人生幸路 4

大峰詣

「投稿文」

「私が思っている事」

「投稿文」

観光地吉野山の発展の未来を探る

聞き耳ずきん 6

女性部だより



## 聞き耳ずきん ~ 6 ~

は~い こんにちはポチです

昨今、ポチと旦那の子鉄君は温泉にはまっ  
いて、暇を見つけてはドライブがてら出か  
けています。と言う事で、今回は「突撃！体験  
温泉ルポ」です。

（突撃って、客で行っただけやんか？体験っ  
てお前旅館泊まって温泉入って牛ほど御飯食  
べて寝ただけの様な気がするけど・・・）子鉄  
の呟き

つい最近では、亀岡（京都）にある「湯の  
花温泉」へ行ってきました。

田んぼ道を過ぎて里山に突き当たると、唐突  
に現れた小さな温泉街、「ムムム？」

ポチの思っている温泉とはチ～ト違うよう  
な？期待はずれかな？ところがどっこい、

お宿がとっても良かったのよ。一泊二食 2  
万6千円 高い！でも・・・安い。この値段  
が安く感じました、温泉以外これといったも  
のが無い（車で15分も走れば保津川のライ

ン下りとトロッコ列車の乗り場はあるけど、  
名所旧跡も無かったように思うし・・・）  
旅館からの景色も今一だし、城之崎みたいに  
町に情緒がある訳でもないし、そんなデメリ  
ットの中、従業員教育を徹底し、宿内の雰  
囲気を演出して個性を出して（食材にもこ  
だわりを感じた）客を満足させ料金を安く  
感じさせる・・・。これってフルに五感  
を使ってサービスに徹しているんだな、同  
じ商品、同等のサービスでも高いと感じ  
させる商店、安いと感じさせる商店、吉  
野山にも色々あると思うけれど、自信の  
店はどうなのかと考えながら温泉にザッ  
ブ～ンと浸かって来たポチでした。

ちなみに、旅館の貸切露天風呂へは、足  
元の竹灯籠の明かりだけで、平らではあ  
るけれども山道を歩くこと5分！行き帰  
りはちーとばかり怖かったけど、静寂に  
包まれて極楽極楽、これが命の洗濯って  
やつなのね・・・あの旅館へまた連れ  
て行って！と子鉄君に帰り道で厳命し  
たポチでした



『奈良吉野山万葉の殺人』

石川真介が新刊出版  
秋の夜長に または  
吉野を旅しながらの  
謎解きはいかが...

旅館

歌 藤

07463 3177



秋の味覚を盛り込んだ万葉弁当  
「鴨すき」「ぼたん鍋」  
ゆっくりお食事していただけます



四季料理

初 音

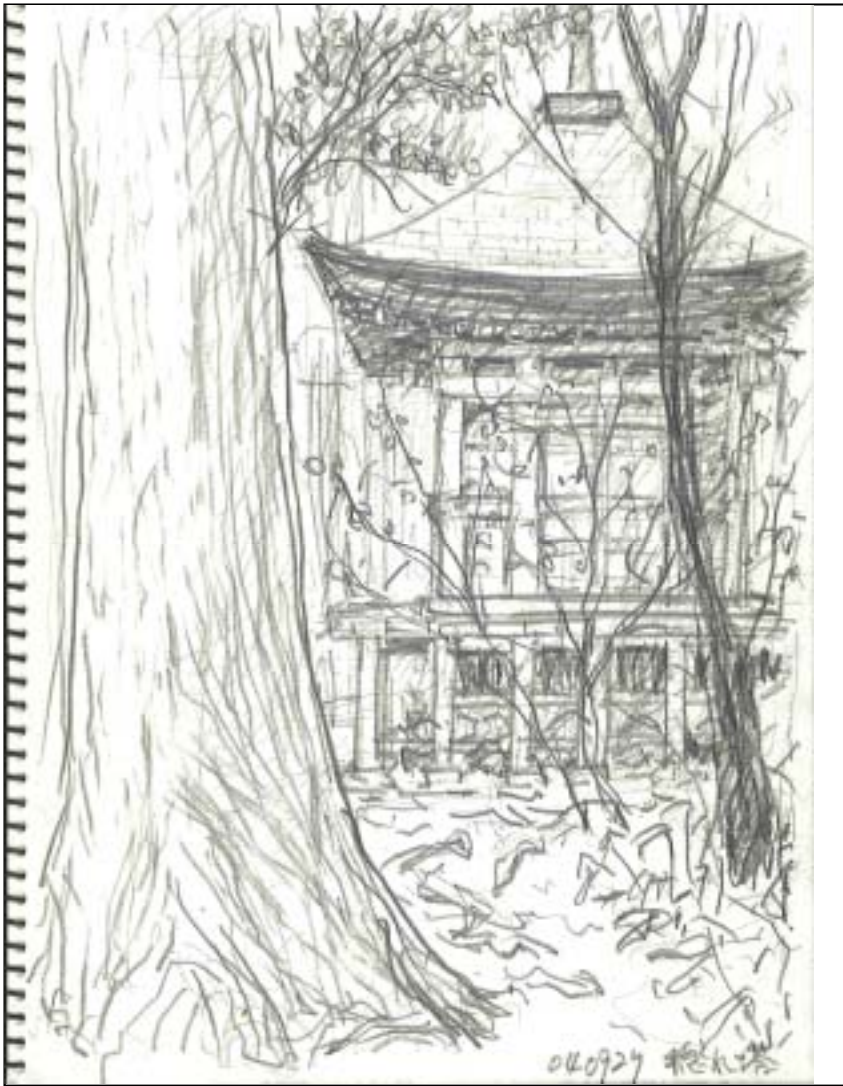
07463 8455

# 隠れ塔

## そこかしこ 六

金峯神社の拝殿と、この度新築になった社務所横の冠木門かぶきもんを通り、急な小道を下ると、杉木立の中に単層宝形造りの隠れ塔があります。

元は、鎌倉時代の建物であったようですが、明治三九年（一九〇六）に焼失し、今の隠れ塔はその後に建てられたものです。



この塔は、大峯山伏の修業場の一つで、先達に率いられた行者達が塔の中に入ると、扉が閉められて、中は真っ暗になります。今は子守町の坂本様の導きに従って

「吉野なる深山みの奥の隠れ塔、本来空のすみかなりけり、オンアピラウンケンソハカ、南無神変大菩薩」と唱えながら、暗闇の中を手探りで役行者を祀る狭い塔内を巡ると、突然耳をつん裂くばかりの激しい半鐘が鳴り響き、中の行者さんは、度肝を抜かれます。扉が開けられ、光が差し込み、明るい外界へ出た時、俗気が除かれ、身も心も洗われたようになり、これからの厳しい大峯修行に入っていくこととなります。俗気を払うので、この塔のことを「気抜ききぬきの塔」とも言われています。

時は文治元年（一一八五）一月十五日兄源頼朝の厳しい追手をのがれ、ひそかに吉野山に落ちのびて来た義経の一行に、頼朝より「義経を討て」という厳しい命令が金峯山衆徒の元へおりてきた。義経を庇うべし、いや庇うことに依って蔵王権現を祀る吉野山全山が攻められ焼き討ちにあうかも知れないという衆議がなされ、我々は義経殿に何の恨みもないけれども、吉野山を守る為吉野山から出て行ってもらうしかないと決議された。寒さと飢えと不案内な山中、二十日の明け方、全員疲れきって塔内で前後不覚に眠り込んでいるところを吉野衆徒の追手に踏み込まれ、塔の天井を蹴破って外へ逃れ出、落ち延びていったので「義経蹴抜けの塔」とも、また義経一行がここに隠れていたのので「義経隠れ塔」とも伝えられています。



# すすめの人生幸路

## 大峰詣

投稿文 雨野あられ

七月の世界遺産から早四ヶ月。身の回りでの変化を感じておられるだろうか。あの歓喜に湧いた日の事を忘れる事は出来ない。

マスコミで大きく報道され、今まで以上に吉野山の存在がクローズアップされる事となった。それが故に責任もますます重くなつたと言う事だ。

一つのシーズンを終わると途絶えがちだった客足も徐々に増えて来たように思えるのは私だけだろうか。

桜から新緑、そして紅葉のシーズンへと突入する。気候もグリーンと良くなりハイキングにはもってこいのお日柄が続く。ブラブラとそぞろ歩きも良さそうだ。

今回、お話を聞いていただきたいのは、大峰詣である。

苔清水の向う右手の小道を約十分程たどると、山上ヶ岳へ通ずる道へと出る。その道を更に右へ進めば「従是女人結界」と刻んだ石碑がある。つまりここから奥へは大峰の聖地となり女性の立ち入りを禁ずると言うことだ。

この世界遺産になったおり、小耳にはさんだ話なのだが、千数百年と続いてきた、しきたり掟を今更ながら、撤回してもいいのではないかと、か！と言う声だ。そしてひそかにその様な動きもあると言うことだが？ どうだろう。

昨今、男女平等を問う風潮があるようだが、お互いに踏み込んではいけない領域があってもいいのではないだろうか。世界遺産になってこそ、この伝統を重んじ、受け継いでいく事が私たちにゆだねられた指名ではないかと考える。この現在に、そして未来にそれこそを頑なに守り通すと言うことも、また吉野人の誇りになるのではないだろうか。伝統を守り続ける凛とした心こそ尊きものだと思うがいかがなものだろうか。

ともあれ今年も錦の山模様を見られる季節となった。これもまた今年だけの限定である。せいぜい眼と心に焼き付けておきたいものだ。



甘さ控えめの吉野葛菓子を  
手作りにて製造販売しています  
まずはご試食して下さい



桜陰山本庵

07463 3158

赤や黄色に染まった葉っぱで包んだ柿の葉すしはこの季節だのお目見え  
とってもステキ！



ひょうたろう

07463 3070

## 私が思っている事

= 投稿文 =

青木 迪子

商工会女性部が「群すずめ」を発刊することになった時は、

「皆さん忙しいのに大変だな、どれだけの効果が有るのだろう、またそれを町内に掲示、ますます大変ご苦労さん。」と言うのが私の正直な気持ちでした。

それが回を重ねるにつけ充実した紙面になり、そして此の度はインターネットにデビューとは、編集部部員の皆さんの熱意と努力の賜だと感服致しました。

この度、吉野山は世界遺産に登録され、それを記念し来年六月末日までの一年間、秘仏金剛蔵王権現さんが御開帳されている事で、大勢のお客さんに来て頂いて入る事を有りがたい事だと思っています。

お客さんが、「立派だった 有難かった」と感動される声を聞き、吉野山に住む私達は歴史

のあるお蔭で生きさせて頂いているのだと改めて嬉しくも誇らしくも思い、また、こうして情報誌（インターネット掲載）として、吉野山の自然 文化 歴史の素晴らしさを世界に発信し、少しでも関心や興味を持っていただき、お客さんにより印象を与え「訪れたい」と思う気持ちになって頂く事が今の我々に課せられた使命だと考えさせられました。

また、率先して道の掃除や草ひき等をして下さっている方々もおられます。

私はお客さんが持っておられるゴミをもらって捨てたり、駐車場を探しておられる方に私有地を提供したり、細い道路の通行を円滑にするために軒先をゆずる事ぐらいしか出来ておりませんが、吉野山の皆がお客さんの身になって考える、この誰もが頭の中では分かっている事を実行に移す事が何よりも大切な事だと思っています。

そして一人でも多くの人々に訪れて頂く事で、過疎化の進む吉野山ではありますが、世界遺産を後世に守り伝えて行くことの出来るいしすえ礎になるのだと痛感している今日この頃です。

日帰り入浴しております

( 11 : 30 ~ 19 : 00 )

絶景露天風呂で ゆっくりほっこり  
昼食プランは入浴サービスです



湯元 宝の家

07463 5121

いちょうともみじの葛菓子に  
お抹茶セット お店は秋の名残り  
『からすうり』のお飾りです

葛根庵  
横矢芳泉堂

07463



葛の元祖 八十吉

07463 8739



創業嘉永四年の  
吉野葛専門店です  
ご進物や郷土のお土産としても  
広くご愛顧いただいております

< 定休日変更のお知らせ >

10月より定休日が変わっております

毎週 木曜 日曜 祭日

迷惑おかけします

ヨシノ美容室

07463 3045



## 観光地吉野山の発展の未来を探る

歌籐 恵子

吉野山に移り住んで、十二年。

この山の美しさに、魅せられるのにそう時間は必要なかった。ここには、まさに天然の感動が、ちりばめられている。

朝日、夕陽、朝焼け・夕焼けの空、霧、霞、月、星、漆黒の暗闇、虹、雲海、樹氷

桜でピンクに染まる山、艶やかな紅葉、吉野山に連なる山々の峰、梵鐘、鳥のさえずり、野生動物の存在。

山の音：それは、葉の触れる音であり、又、時としては、まったくの静寂な空間まで、演出してくれる深い森。

どんな場面も、その季節の風物に、空気までが染まっているような気がする。

もちろん、都会にいても、朝日・夕日も見られるだろう。でも、この大自然を背景にして、眺めるその光景は絶品である。

観光は決して、お祭り騒ぎでも、催し物でもないと思う。そこには、観光の哲学みたいなものが、必要であろう。

まして、ここは、観光地というより、修験道のお山として開かれた歴史がある。

靈性を磨く修行の場でもあることを忘れてはならない。この豊かな自然こそ、観光に来られる人たちに、

誇りを持って、発信していきたい吉野山の財産だと思う。発信すべき事は、イベントでもなければ、行事の予定でもない。

日々繰り返し返されるすべての自然の厳かさ（厳かさ）を、私達がまず知ること、そして、それをこの地を訪れて下さる方達に、体験していただくことに他ならない。

私達人が、自分の住むこの土地の天然の感動を再認識してみることから始めよう。

この美しい吉野山  
皆んなで守りましょう  
吉野山で初の温泉掘削に成功  
オープンは12月ごろです

旅館

さこや

07463 5155



長男は葛湯等を自分で作ります  
インスタントラーメンも葛麺に  
吉野葛をもっと家庭に！

吉野荘

湯川屋

07463 3004



ひゃこい日には  
おばあちゃんが作った  
あったか～い おぜんざいで  
『ほのぼの』しませんか

茶房 仁

07463 0015



地酒試飲販売どころ  
特産みやげもの  
お車 駐車していただけます  
是非お立ち寄り下さいませ

青木酒店

07463 3059



# 楽しみ方伝える語り部の養成急務！

吉野町商工会 事務局長 青木 龍蔵

## < 地域活性化に観光振興は有効な手段 >

国内観光市場は、7兆2900億円。この市場のうち、どれだけ吉野が獲得できているのだろうか？

ご承知のように、政府は2010年までに、外国人観光客を現在の500万人から1000万人にする観光立国アクションプログラムを実行しようとしている。観光振興を景気回復の手掛りにしたいとの思惑もある。政府の試算では、来日客が800万人に増加した場合、旅行業・ホテル・飲食店などで計2兆7千億円以上の経済波及効果があり、約15万6千人の雇用創出が見込めるといふ。

高度経済成長時の日本の機関車は製造業、いわゆる「物づくり」によって豊かな繁栄を勝ち取ってきた。しかし、ここにきて製造業の多くは人件費の安い中国にその拠点を移している。今後の製造業は、「日本でしか作れない物」以外、その将来性は少ないといわれている。その上、少子化という国内問題を抱えている。子供が減るといふことは、いろんな分野を平均しても需要が減る事は間違いない。

今までの吉野山の観光は、四季折々の美しい自然・豊かさと変化に富んだ地勢、歴史の厚みを生かして観光客を魅了し、年間70万人の観光客を誘客してきた。しかし、観光ニーズの変

化等により入込客が伸び悩み、就業者数の減少による経済体力の低下が危惧されている。桜や紅葉シーズン以外のお客様を如何に増やすかが永年の課題であり、色々と知恵を絞って実践して来られた。

お陰で本年7月、関係者のご尽力が功を奏し、待望の世界遺産登録で再び眩い光が当てられている。正に“吉野はどう変わるか、変わるのか！”が今後の課題となる。同時に世界遺産登録で、この素晴らしいものを後世に伝える責任、或いは環境保全をどうするのかといった新たな課題も生じてくる。

有難いことにマスコミが報道する事で誘客の起爆剤となり、6~7月の蔵王堂参拝者が昨年の10倍に膨らんだと報じられ、街中を散策する観光客も確実に増えてきている。これを継続するのは地元の力。知恵と汗を出しリピーターを増やしていくことが大切。再度訪れた時に、新しいモノや仕掛け、或いは心が躍るような雰囲気に出会う事ができるのかがキーとなってくる。観光の主目的は自然に触れるだけではない。人々が足を運んでまで見たいと思うのは、そこでしか実現しない文化である。文化はまたその地に住む人々の生き方に他ならないと観光専門家が口を揃えて教示されている。

## < 吉野が目指すべきもの >

その視点から、吉野は訪れる人々の「エネルギーをチャージしてくれる聖地」として、おもてなしの心で接遇する事から始め、思い出を売るお土産づくりや、伝統をパッケージした新たな商品開発が非常に重要になってくると思われる。是非とも地道な取り組みを願いたいものだ。女性部の皆様方が、世界遺産の地 吉野を再考しながら相互に支え合い、吉野にいるという誇

りが街に輝きをもたらすことが出来るよう地域情報誌“群すずめ”を6回も継続発行され、女性の熱い眼差しで建設的な提案をされている。真髓を捉えた投稿も多く頼もしい限りだと楽しく読ませて頂いている。末永く発行されることを祈念申し上げ、そのご努力に心から敬意を表したい。

松茸土瓶蒸、山菜料理 ぼたん鍋など

秋の味覚が満載！  
絶景のお席をご用意して  
お待ちしております



お食事処  
静 亭  
07463 3157

秋と春の味覚の共演！

栗桜ソフト 美肌作りに葛石鹸  
大自然と大地の恵みを吉野の里から



さくら堂  
07463  
5835



# ～女性部だより～

世界遺産登録おめでとうございます

群すずめの発刊から今回まで、7号目となります。

会員の皆様のご協力のお陰をもちまして、回を重ねるごとに内容も充実して参りました。

祈りの地「吉野大峰」が未来の人達に贈る事の出来る、大いなる遺産として認められ、この地に住む私たちには、これからも守り続けていくと言う大きな責任を痛感し、背筋の伸びる思いが致します。

これを機会に、今以上の大勢のお客様がこの山にお越し下さる事と思えます。

お訪ねくださるお客様に、皆様ひとりひとりが地図となり、又観光案内所となって接する事によって、人と人とのふれあいが生まれ、吉野山で良い思い出づくりをしていただけたら、と思っております。

その為にも「群すずめ」にどんな小さな情報でも結構です、多くの皆様からの掲載文をお待ちしています。

私たち情報部員も少しでも興味深い、読みやすい、そして楽しい紙面作りを試行錯誤を繰り返しながら行っております。皆様の色々なご意見やアイデアをどしどしお寄せ下さい。

お手伝いいただける方も大歓迎です  
どうかこれからも温かい目でご協力頂きます  
よう宜しくお願いいたします。

情報部 森下 満寿美

～次号《第8号》発行のお知らせ～

✽ 発行日 平成17年3月1日

✽ 掲載記事募集期間  
平成17年2月10日まで

投稿文

匿名さん

吉野山も世界遺産に登録される事により、私たち区民はどんな心構えでいたら良いのか戸惑うところですよ。

先日、大阪方面に住む三年生の孫が墓参りに帰り言いました。

「おばあちゃんにとって、すごい所に住んでいるのやな」と。

行政的には善処して下さるのでしようけれど、心情的には観光或いは歴史探訪に全国からお客様がおこしになり、お花見ばかりではありませんので、どなた様にも「ようお参りでした」と声を掛け親切にご案内しようではありませんか。



隠れ塔



## 編集後記

群すずめ発刊にあたりご協力頂いた方々にお礼申し上げます。小さい情報誌ですが、世界遺産に登録された地での情報紙です。観光されている方に質問を受けても答えられる人になって下さい。その一助にこの群すずめを使ってお知らせ幸いです。

また、ご自分の持っている素敵な情報や厳しいご意見など、お蔵入りさせずにどんどんお寄せ下さい。お待ちしております。